



本日はよくお参り下さいました

日足もすっかり短くなりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。先月は九月の小祭が行われました。小祭は、氏子会役員の方にご参拝いただき、国家の安泰、地域の発展、崇敬者の健康などを祈念するものです。さて私事となりますが9月30日に養神館合気道の全国大会に初めて出場させていただきました。合気道を初めて15年程になります。まだまだ未熟者ですが、神道と合気道は精神的に通ずるところが多々あり、自分にとっては、神職としての資質を高めるための修行のようなものになっています。この大会から受けた刺激を、良い方向へ持っていけるよう、これからも日々精進してまいります。今月も、皆さまのご健勝と、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。権禰宜 道子



和の武道「合気道」

和の武道「合気道」
す。まだまだ未熟者ですが、神道と合気道は精神的に通ずるところが多々あり、自分にとっては、神職としての資質を高めるための修行のようなものになっています。この大会から受けた刺激を、良い方向へ持っていけるよう、これからも日々精進してまいります。今月も、皆さまのご健勝と、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。権禰宜 道子

10月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

4日十五夜 昔は、月の満ち欠けによって、おおよその月日を知り農事を行いました。十五夜の満月の夜は祭儀の行われる大切な節目でした。

8日寒露(かんろ) 晩夏から初秋にかけ野草に宿る冷たい露のことをさし秋の深まりを思わせます。



神宮祭主は、天皇陛下に代わり祭典を奉仕する役です。今年黒田清子さんが正式に祭主に就任されました。

9日体育の日

17日神宮神嘗祭(じんぐうかんなめさい) 伊勢の神宮の数ある祭儀の中でも一番の大祭。この祭りは、天照大御神が天上の高天原において、新嘗を食したという『古事記』の神話に由来し、その年に収穫した新穀を由貴(ゆき…清浄な、穢れのないという意)の大御饌(おおみけ)として、祭主が天照大御神に奉るお祭りです。

23日霜降(そうこう) 秋も末で霜が降りる頃という意味から霜降といひます。この頃になると秋のもの寂しい風趣が、かもされてきて、早朝など所によっては、霜を見るようになり、冬の到来が感じられてきます。

天神さまの豆知識

1月見について

月見は旧暦八月十五日の夜に満月を愛でる行事として広く行われています。古代中国ではこの日を「中秋」と呼び、名月を觀賞する風習がありました(中秋節)。

この行事が日本でも取り入れられ、奈良・平安時代の貴族たちの間で、満月を眺めながら詩歌管弦の宴が催されるようになり、雅な行事として定着したのです。

ただし、もともと日本には満月を神聖視する信仰が根づいていました。古来、月の満ち欠けのサイクルを農作業の目安としてきたからです。ことに旧暦八月の満月の日は、初穂祭の日にあたり、農村部では秋の収穫を月神に感謝する日でした。

日本神話では月神を月読命(つぐよみのみこと)といいます。「読」は数えるという意味であり、月齢を数えて暦とした私たちの先祖の生活が浮かび上がってきます。

現在では、旧暦八月十五日(十五夜)と、九月十三日(十三夜)の夜に月見をします。十五夜は里芋の収穫期と重なり、里芋を備える風習があったことから芋名月とも呼ばれます。月見をするにあたって、白木の台に芋、団子、栗、おはぎなどを供え、ススキなど秋の七

草を飾るのが一般的です。

ススキは稲穂の代わりに供えるもので、これに月神が乗り移つてくると考えられていました。また月見団子は月と同じ丸い形をした団子を食べることで、月神の力を得ることができると考えられたためと言われています。



参考文献『神道と
しきたり事典』茂
木貞純監修 ニ
〇一四年(株)PH
P 研究所発行

今月の言葉

かんが

『古を稽(考)える』

古を稽(考)える。つまり稽古である。昔に起った事象を学べば、いまの世に古き良き慣行を生かす手助けを得る。過去から何も学ばず、やみくもに突き進むのは、暗闇の中を歩くようなものだ。過去の体験、先人の経験は、今という暗闇を照らす光だ。稽古とは、習ったことを反復して身につけ、現在を生きることである。国にも人にもそれに見合った積み重ねた経験という歴史がある。歴史を知ることが、今を知る手がかりなのだ。参考文献『神道のことば』武光誠監修 河出書房発行